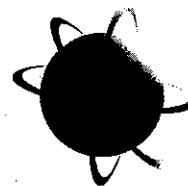


# JGGA NEWS



2008年(平成20年)5月 2号

## CONTENTS

---

- トピックス
    - 新たな促進策の政策効果ははっきりするのは7月以降 ..... 1
  - 平成20年4月度理事会報告 ..... 3
  - 委員会活動
    - 総務委員会広報専門部会 ..... 5
    - 環境委員会 ..... 8
  - 新入会社挨拶
    - サンド株式会社 ..... 10
    - 日本ケミファ株式会社 ..... 10
    - メデイサ新薬株式会社 ..... 11
  - リレー随想(澤井 弘行) ..... 12
  - お知らせ
    - 賛助会員の入会について ..... 15
    - 第41回定期総会等の開催について ..... 15
  - 活動案内 ..... 16
-



## 新たな促進策の政策効果ははっきりするのは7月以降

後発医薬品の使用促進を狙った新しい施策が4月からスタートした。ご承知の通り、新しい施策は処方せん様式の変更と、調剤報酬に新設された加算（後発医薬品調剤体制加算、以下、後発医薬品調剤加算）。処方せんの新様式は医師が「変更不可」という署名をしない限り、処方せんを受けた調剤薬局は記載してある銘柄とは別の医薬品を処方していいというものだが、滑り出しは好調で署名無しの処方せんが調剤薬局にドッと押し寄せているようだ。しかし、これが本当に後発医薬品調剤に結びつくかどうか、政策的な効果を検証するには、もう少し時間がかかる。その理由は処方せんを受け取る調剤薬局、処方せんを出す医療機関双方にある。

まず調剤薬局について言うと大手チェーン傘下は、中医協論議で新たな処方せん様式が議論の俎上に載った段階から準備を始め、処方せん発信元の医療機関の意向を聞いたうえで、すでに後発医薬品調剤体制を確立、現時点で署名がない処方せんが来たら積極的に後発医薬品を調剤している。また、後発医薬品調剤加算は直近3か月の後発医薬品調剤割合が30%以上になれば処方せん一枚につき調剤料に4点の加算が付くというものなので、気の利いたところなら、4月から加算をもらうために1～3月の段階で、後発医薬品調剤割合を30%以上にしようと動いているかも知れない。ただ、大手以外の中小調剤薬局は、まだ迷いがあるはずだ。4点の加算で、どのくらいの経済的メリットが出るのか、揃えておくべき後発医薬品銘柄をどうやって決定するか、決めかねているからだ。

薬価差の時代は終わったといえども、購入価の自由が認められている以上、保険請求額（薬価）との間に差額が生じるのは、当然のことだ。そのため薬局は、この差額と加算両にらみで、方針を決めるはずだ。これまで通り先発医薬品を使っていた方が後発医薬品の調剤割合を高めて加算をもらうより経済的メリットがあれば、後発医薬品を積極的に使用することにはならないだろう。ま

た、署名無しの処方せんがどれだけ来るのか、まだ始まったばかりの現時点では読めないし、後発医薬品を揃えるにしても、どの会社の銘柄を揃えていいのか判断できないだろう。

先発医薬品と後発医薬品の経済的メリットを比較するには、価格が妥結していなければならない。また、署名なしの処方せんがどれだけ出てくるのか、それで3か月平均30%という加算要件をクリアできるかを見定めるには時間がある。さらに今年7月にはアムロジピンをはじめとする後発医薬品の追補収載が予定されている。こうした背景に思いをさせれば、調剤薬局での政策効果ははっきりしてくるのは、少なくとも7月以降になるだろう。

ただ、懸念があるのは、薬局より、むしろ処方せんを出す“川上”の医療機関だ。今出ている署名がない処方せんをもって、医療機関が本当に「調剤薬局で銘柄を変更して、後発医薬品を調剤してもいいですよと言っている」と捉えるのは、いささか楽観的過ぎるように思う。単純に処方せん様式の変更を知らずに、署名していないケースもあるように思われるからだ。

わずかではあるが、「変更不可」で意思統一している医療機関も散見される。この中には、「後発医薬品に絶対反対」という施設ばかりではなく、「後発医薬品でもいいが、当院の方針に沿った後発医薬品銘柄以外の変更は認めない」という施設もあるようだ。こうした医療機関の動きが、今後、他の医療機関に波及するかも知れない。

厚労省、業界団体も、どこかの時点で政策効果を検証する必要があるが、7月以降が妥当だろう。

## 平成20年4月度理事会報告

4月17日新大阪ワシントンホテルプラザ会議室において理事会が開催されましたので、付議事項についてお知らせいたします。

出席者：理事・監事14名、委員会・事務局5名

### I. 審議事項

#### 1. 日薬連役員推薦等に関する件

【議事要旨】日薬連理事および監事の推薦について、当協会正副会長を従前より推薦しており、今期についても、理事に澤井会長および吉田副会長、監事に渡辺副会長を推薦する。また、東薬工より推薦予定の評議委員については、高田製薬(株)、テイコクメディックス(株)の2社とすることが承認されました。

#### 2. 第41回定期総会付議事項に関する件

【議事要旨】5月22日(木)に開催予定の第41回定期総会付議事項について、報告・説明があり、審議の結果、原案どおり総会に付議することが承認されました。

#### 3. 新入会会員(賛助会員)に関する件

【議事要旨】賛助会員入会申請のあった(株)菊水製作所について、審議の結果、入会が承認されました。

#### 4. 流通適正化委員会アンケート調査に関する件

【議事要旨】例年実施している当委員会アンケート調査に関し、設問の変更・追加等があることから、実施について審議した結果、一部修正の必要があるため、一旦委員会に戻し再調整することとしました。

### II. 報告事項

#### 1. 信頼性向上PJについて

2. C P h I 基調講演について

Ⅲ. その他

1. 査察ならびにジェネリック医薬品の抜き取り調査について
2. 総務委員長の交代について
3. 平成20年度会費額について

委員会だより

総務委員会広報専門部会

### 広報専門部会報告

2007年後半から2008年4月にかけて、世の中からのジェネリック医薬品に対する注目が高まる中、広報専門部会は、広告活動、執筆活動、イベントへの出席、ホームページの改訂などに取り組んで参りました。

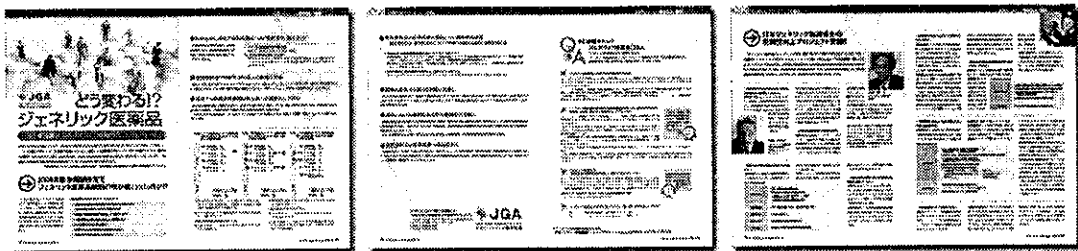
ここで最近の主な活動についてご紹介させていただきます。

#### ① 広告活動

4月2日の読売新聞朝刊に紙面1/3の大きさのモノクロ広告を掲載致しました。処方せん様式が再変更されたことにより、ジェネリック医薬品が身近になったことをお知らせするとともに、団体名称のお披露目も兼ねた内容となりました。

また薬剤師の先生方に対してもジェネリック医薬品に関する制度改革の内容についてよりご理解頂くために、日経DI 4月号へ記事体広告を掲載しました。主な制度変更と当協会が取り組む信頼性向上プロジェクトについて紹介しました。

ジェネリック医薬品啓発活動に積極的に取り組んでいる呉市では市民宛の封書へ広告掲載することで協力する予定となっております。

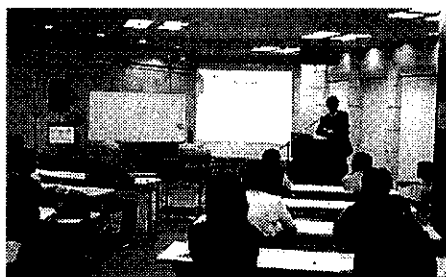


## ② 執筆活動

東京都薬剤師会からジェネリック医薬品に関する原稿のご依頼を頂きました。会報誌4月号では「ジェネリック医薬品における品質確保」ということでジェネリック医薬品の開発から製造段階における品質管理についての原稿を掲載頂き、5月号ではジェネリック医薬品についてよく寄せられる質問とその回答を「ジェネリック医薬品Q&A」という形で掲載頂きました。

## ③ イベントへの出展・講演

2月2日に大阪の南港にあるATCエイジレスセンターにてジェネリック医薬品に関して講演したところ、高齢者の方々をはじめ参加者の皆さまからは多くのご質問を頂きました。



また昨年に引き続き4月9日～11日に開催されたC P h I (国際医薬品原料・中間体展) ではブースを出展しました。

## ④ ロゴマーク

団体名称変更に伴ってロゴマークを変更しました。品質再評価結果を掲載するオレンジブックの“オレンジ”を基本色とし、中心の球体は錠剤ならびに活力あふれる地球をイメージしています。中心を、三つの輪で包み込んでいますが、それぞれの輪の意味は品質(ブルー)、安定供給(グリーン)、情報提供(レッド)を表しています。



Japan Generic Medicines Association  
日本ジェネリック製薬協会

また、輪の色には次のような意味もあります。オレンジ=健康・活力、ブルー=誠実・信頼、グリーン=バランス・調和、レッド=活動力・積極性。

尚、封筒や名刺、そしてJGAとしての講演の際に使用するパワーポイントの背景などを同時に制作しておりますので、ご入用の際は事務局までお問い合わせ下さい。

⑤ ホームページの改訂

団体名称の変更及びロゴマークの変更とともに、ホームページを改訂致しました。また会員会社向けのイントラネットを構築しましたので当協会内の情報共有にご活用頂ければと思います。

今後も当協会内外のコミュニケーションを活性化すべく、メンバー一丸となり、活動して参りますのでご協力の程よろしくお願い致します。



**環境委員会****環境委員会報告**

環境委員会は、平成19年12月の臨時理事会において設置が認められた新しい委員会です。平成19年度は2月5日に第1回目の委員会を開催し、活動の第一歩を踏み出しました。

本委員会便りでは、日本製薬団体連合会（以下、日薬連）環境委員会の活動紹介も含め、平成19年度の活動状況・平成20年度の活動方針などについて報告します。

平成19年10月に日薬連に環境委員会が設置されました。これまで、製薬業界の環境活動は、日本経済団体連合会の温暖化対策「環境自主行動計画」にあわせ、日薬連が日本製薬工業協会（以下、製薬協）と共に平成9年から毎年フォローアップ活動を続けてきました。

「環境自主行動計画」は、「産業・エネルギー転換部門における対策の中心的役割を果たすもの」と位置付けられ、その透明性・信頼性・目標達成の蓋然性が向上されるように定期的なフォローアップをするように定められています。平成19年度に政府が作成した「京都議定書目標達成計画の見直しに向けた基本方針」では、自主行動計画について、①既策定団体に対しては政府によるフォローアップを徹底するとともに、②未策定団体に対しては策定に向けた働きかけを進めることとなりました。こうした状況を踏まえ、厚生労働省においては、政策統括官（労働担当）が外部有識者を参集して「厚生労働省環境自主行動計画フォローアップ会議」（以下、F U会議）を開催し、定期的にフォローアップする事になりました（参照：厚生労働省環境自主行動計画フォローアップ会議資料）。しかしながら、医薬品業種としての企業数に比べ、フォローアップ参加企業数の少なさ（カバー率の低さ）という課題があり、日薬連としても医薬品業界全体をカバーする為に、製薬協・日本OTC医薬品協会（以下、OTC薬協、当時、日本大衆薬工業協会）・日本ジェネリック製薬協会（以下、GE薬協、当時、医薬協）の委員からなる「環境委員会」を設置し

ました。環境問題には、資源リサイクルなどもありますが、この環境委員会では、現在のところ主に地球温暖化防止に焦点が絞られています。この動きを受け、GE薬協においても上部団体委員会の受け皿として、環境委員会が設置されたところです。

GE薬協 環境委員会は、平成19年度に、委員会の開催並びに調査活動・情報共有化を行いました。委員会では、日薬連 環境委員会活動内容報告、平成20年度活動方針等について論議をしています。また、GE薬協加盟会社のエネルギー管理指定事業所調査、日薬連主催 省エネセミナー参加、各種資料配布なども行っています。

環境委員会の実質的活動は、平成20年度からになります。日薬連・製薬協では既に10年以上の活動実績があり、多くの知識・技術・ノウハウ等を所有しています。日薬連環境委員会を通じて、それらを有効に活用させて頂き、GE薬協加盟会社が環境問題、特に地球温暖化防止対策を容易にキャッチアップ出来るよう委員会として対応したいと考えています。初年度にあたる平成20年度は、「エネルギー使用量の把握」と「啓発活動」に焦点を絞り、次のような活動方針を掲げています。

1. 「GE薬協加盟会社工場のエネルギー使用状況把握」
2. 「啓発活動の実施」
  - (1) セミナー・講演会への参加と開催
  - (2) 環境委員の研鑽(事例紹介、他)
  - (3) 委員会活動の広報
  - (4) キャンペーン活動の導入

これからの環境委員会の活動に会員会社各位のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 新入会社挨拶

### サンド株式会社

代表取締役最高経営責任者

中道 淳一

新生 日本ジェネリック製薬協会の会員の皆様、4月1日より正会員として参画させていただきましたサンド株式会社の中道淳一と申します。ノバルティスグループのジェネリック医薬品部門であるサンドで日本市場の責任者を務めております。以前よりIGPAに対する働きかけなどご一緒させていただくこともございましたが、この度の入会をきっかけに、他の分野においても皆様方からご指導を頂戴しながら業界発展に貢献していきたいと念じております。どうぞよろしく申し上げます。

.....

### 日本ケミファ株式会社

代表取締役社長

山口 一城

桜の花の便りが嬉しい今日この頃ですが、皆様ご活躍のこととお慶び申し上げます。

いよいよ国によるジェネリック医薬品使用促進策がスタートするこの時期に、日本ジェネリック製薬協会に入会させていただくこととなり気持ちの引き締まる思いです。

微力ではありますが皆様と力を合わせて、国の使用促進策の推進や業界の発展のために尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## メディサ新薬株式会社

代表取締役社長

岩佐 孝

メディサ新薬は1985年に沢井製薬株式会社の100%子会社として設立されましたが、現在は住友商事株式会社から35%の出資を受けています。「なによりも患者さんのために」をモットーとしているサワイグループの一員として、とりわけ当社はオンコロジージェネリックの分野で患者さんのお役に立ちたいと願っております。JGAの会員として沢井製薬とともにジェネリック医薬品の啓発普及に努めてまいりますので今後ともよろしく願いいたします。



## 70年を生きてきて — ジェネリック、野菜、ゴルフ、映画、アメリカ！

沢井製薬株式会社社長

澤井 弘行

私は今年古希を迎えた。考えてみればゾッとする。あと10年もすれば80歳、もう人生ほとんど終わりではないか。しかしこれまで仕事の上では会社の生死をかけた闘いとジェネリック医薬品の欧米並みの普及という大きなテーマがあり、あまりにも理不尽な日本の医療制度をなんとか改革しなければという思いが常に私の人生に張りをもたらせてくれた。

また47歳の時、不健康な生活からメタボになり、血圧が急上昇し夜中に救急車ということもあった。まだ死ぬわけにいかない。以来、私は1に健康、2に健康の生活を実践してきた。朝昼晩、野菜、野菜、野菜の食生活。毎日可能な限りエスカレーターやエレベーターに乗らずに歩くことを心がけてきた。ゴルフも年間50回ほど行くが、カートに乗ったことはない。

私のもう一つの楽しみは学生時代から夢中になっていた映画鑑賞である。最近では月4～5回ほど観る。やはりアカデミー賞がらみの話題作が面白い。最近観た映画の中で良かったのは「スウィーニー・トッド フリート街の悪魔の理髪師」、「ノーカントリー」、「マリアカラス最後の恋」、「エリザベス」などであるが、過去の作品には「ミリオンダラー・ベイビー」、「アレキサンダー」、「トロイ」、「007/ゴールドフィンガー」、「ラストエンペラー」、「ギャング・オブ・ニューヨーク」、「エンロン 巨大企業はいかにして崩壊したのか?」、「男たちの大和/YAMATO」など挙げればきりが無い。

しかし日頃最も関心を持っているのは政治・社会問題である。とりわけ我が日本と世界の超大国アメリカ。私はアメリカの自由・平等・民主主義の正義を概ね信ずる者の一人である。なぜならアメリカのベースボール、アメリカンフットボール、バスケットボール、プロゴルフなどを見れば、実力があれば肌の色に関係なくアメリカンドリームを勝ち取ることが出来る公平な世界があ

る。アメリカへ参入の企業も同様である。アメリカは1861～1865年の4年間南北戦争により62万人のアメリカ人同士が命を失った。この戦争は奴隷を解放し、肌の色や人種によって差別することなく人類は皆自由であり平等であるというまさに人類における金字塔を打ち立てた。リンカーンは史上最も偉大なアメリカの大統領であると思う。ルーズベルトは第二次世界大戦で、ユダヤ人大虐殺や世界を支配しようとしたあの独裁者ヒトラーを倒し、終戦させた。この時アメリカの世論は、アメリカが直接侵略されない限り、80%の国民が参戦することに反対していた。そこでルーズベルトは策略を凝らし、日本への原油封鎖などにより日本を追い詰め、日本の真珠湾攻撃を口実にアメリカは第二次世界大戦に参戦したと言われている(「真珠湾の真実 — ルーズベルト欺瞞の日々」より)。つまりルーズベルトはイギリスを始めヨーロッパを救うため、真珠湾にいる若いアメリカ兵士2800人の犠牲を甘んじて受け入れながら、より巨大な悪(ヒトラー)を倒すため、苦渋の選択をした偉大な大統領だった。敗戦国の日本人として複雑は心境であるが、この時アメリカの戦死者は29万人であった。

1950～1953年に朝鮮戦争が勃発した。アメリカは共産主義の侵略を防ぐために南朝鮮に加担し、6.3万人のアメリカ兵士が戦死した。その後ベトナム戦争にも参戦し、ベトナム共産党のベトコンとの15年にもわたる戦争で5.8万人のアメリカ兵士が亡くなった。言うまでもなく、20世紀人類最大の過ちは共産主義であったというのが現代の趨勢である。旧ソ連の崩壊、毛沢東時代の中国経済の停滞、東ドイツ・東欧の崩壊、南北朝鮮の現実を見れば明らかであろう。アメリカはこの恐るべき勢力を封じ込めるため、自国の若い尊い生命を多数失ったのである。おかげで韓国や日本などが共産化を免れたと言えるのではないか。つまりアメリカの民主主義は地球レベルで最大多数の最大幸福であり、少々の犠牲も受け入れるという偉大な国民、偉大な国家だと思う。ただ、今のイラク戦争は独裁者フセインを倒せばイラクに民主主義が出来るという間違った情報により始まった間違った戦争である可能性が強い。フセインは処刑されたが、平和は訪れず、一層戦争は激化しているのは何よりもの証拠であろう。もはや退くも地獄、続行するも地獄の泥沼だ。民主主義(大衆)も人間である以上、時には過ちを犯すことはある。

最後に、日本の政治は一体どうなるのであろうか。現況は本当に情けない。それに比べて韓国の新大統領李明博氏は偉大な大統領になると確信している。韓国が羨ましい。偉大な政治家の出現を強く望む。

さて、私は6月に沢井製薬の社長を退き、会長に就任する。今後は当協会の会長業務に軸足を置いて、業界のため、そして国民や国家のために微力ながら貢献していきたいと考えている。

次号は、共和薬品工業(株)の渡辺社長をお願いします。

## お知らせ

### ☆ 賛助会員の入会について

4月度理事会において、下記のとおり入会(賛助会員)が承認されましたのでお知らせ致します。

社 名： 株式会社 菊水製作所  
所 在 地： 〒604-8483 京都府京都市中京区西ノ京南上合町104  
代 表 者： 代表取締役社長 島田 啓司

### ☆ 第41回定期総会の開催について

以下のとおり定期総会を開催致しますのでお知らせ致します。

日 時： 平成20年5月22日(木)

定期総会 14:00~16:00

講演会 16:00~17:00

懇親会 17:00~18:30(中締め)

\*上記時間は予定となっております。恐れ入りますが、  
別途送付されます開催案内をご確認下さい。

場 所： 東京プリンスホテル2F「マグノリアホール」

〒105-8560 港区芝公園3-3-1




 活|動|案|内|

## &lt;日 誌&gt;

4月 7日	総務委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月11日	品質委員会	〃
4月16日	信頼性向上PJ全体会議	繊維会館会議室
4月17日	常任理事会	大阪ワシントンホテル会議室
〃	理事会	〃
4月22日	環境委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月23日	総務委員会広報部会	繊維会館会議室
〃	総務委員会広報専門部会	〃
4月24日	薬事関連委員会連絡会	日本ジェネリック製薬協会会議室
4月25日	薬価委員会	薬事協会会議室

## &lt;今月の予定&gt;

5月12日	総務委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
5月15日	総務委員会広報部会	〃
〃	総務委員会広報専門部会	〃
5月22日	常任理事会	東京プリンスホテル会議室
〃	理事会	〃
〃	定期総会	〃
5月26日	薬価委員会	東京薬業会館会議室
5月27日	くすり相談委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室
〃	製剤研究会	東京薬業会館会議室
5月28日	薬制委員会	繊維会館会議室
5月29日	薬事関連委員会連絡会	日本ジェネリック製薬協会会議室

## | 編 | 集 | 後 | 記 |

連休も終わり、鮮やかな新緑が目眩しい爽やかな季節となりました。新入生・新社会人、新たな生活を始めた人も、そろそろひと段落落ち着き始めた頃と思います。この時期から気の緩みも出始めるので、いつも初心を忘れずフレッシュな気持ちで居たいものです。

新しい生活、新しい部署での荷物も増え始め責任ある仕事も任されると言うこともあるでしょう。通勤族の方々は段ボールが片付いたと思ったら新たな荷物が増え、充実した生活が始まっているかもしれません。私も通勤が多く、何度か引っ越しをしました。しかし、引っ越しという作業の中で、不要な物がいつのまにやら増えてしまい、それらを処分するか考える良い機会でもありました。すっきりとした環境を整え、効率よい仕事をする為に整理整頓を始める良い時期と言えるのかもしれないね。

今年、医薬工業協議会も名称を日本ジェネリック製薬協会に改めるとともに、事務所も引越しました。我々もこれまでのやり方、考え方を一度棚卸しして、古くなった慣習などを整理し、心機一転すっきりとスタートを切りたいものです。まだまだジェネリック医薬品に対する医師・薬剤師・患者の偏見も少なくありません。ジェネリックという言葉は、TVCM等のお陰で大分一般の方にも浸透して来て興味を持たれている方も増えています。また、法改正等により医師もジェネリック医薬品を処方する事が多くなるとされる今、信用され信頼されるよう一層の努力が必要です。

今だからこそ、皆一丸となって頑張っていく時期なのではないでしょうか。

(H. S)

## ■ 編 集

日本ジェネリック製薬協会  
総務委員会広報部会

## ■ 発 行

日本ジェネリック製薬協会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-3-4

日本橋本町ビル7F

TEL:03-3279-1890 FAX:03-3241-2978

URL:www.jga.gr.jp